

鈴木 満（外務省メンタルヘルス・コンサルタント、認定NPO法人心の架け橋いわて代表理事）
伊藤 憲三（東北みらい創りサマースクール実行委員会最高顧問、岩手県立大学名誉教授）

総 合 討 論：（前半司会）鈴木 満、（後半司会）伊藤 憲三

4内容

震災から5年が経過し、被災コミュニティにおける生活支援需要は多様化しており、既存の行政システムによる支援を超越した未来志向の発想を共有する場が求められている。本企画では、阪神淡路、東日本、熊本と災害復興実務に携わり産官学全ての領域でキャリアを積んできた末村が、具体的な事例を交えながら領域と領域をつなぐ「際」の重要性について提示し、それを受けて3名が各々の専門領域の視点からリレートークを行うことで、ユニバーサルかつフロンティア思考を体言化することを目指す。野沢は省エネ・再生エネルギー・生物多様性を重視した持続可能なコミュニティー作りについて、鈴木はメンタルヘルスの環境要因と医療の場における多職種連携について、伊藤は防災減災コミュニティ作りのための長期的人材育成について語る予定であるが、学際職際的議論の予想外の展開も期待したい。

遠野みらい創りカレッジ

1タイトル

防災ワークショップ『地区防災訓練で防災学習、有事に役立つこと経験』

2開催日時及び会場

平成28年9月4日(日) 7:00～21:00 遠野未来創りカレッジ近隣の土淵地区センター等

3主催および講師（所属、肩書含む）

富士ゼロックス株式会社 復興推進室 中川 慎一（防災士）、星川 洋志（防災士）

4内容

遠野みらい創りカレッジ（旧土淵中学校）近隣の土淵地区センター他においてOpen College2016 夏 東北みらい創りサマースクールを開催します。

毎年「平時が有事」をテーマに様々なワークショップを開催しておりますが、今年度は防災ワークショップ みんなで防災学習を実践 と銘打ちまして、地区の防災訓練の中にサマースクールをアレンジし、ロケットストーブ製作し、参加者で味噌汁やサバイバル飯、牛乳パックでホットドッグづくりなどを経験、非常食等も試食する有事に役立つこと経験してみたいと考えています。※開催場所が変更になる可能性もありますので参加いただける方は事前に遠野みらい創りカレッジ（旧土淵中学校）にお問い合わせください。

災害報道記者セミナー

1タイトル

第4回現役記者のための短期研修セミナー「次の大災害に備えて～大震災報道の教訓と今後を考える」

2開催期間及び会場

平成28年9月2日(金)～4日(日) 県内各地

3企画委員幹事

岩手日報社取締役編集局長 川村 公司

4内容

岩手日報社、岩手県などが主催する「東日本大震災5年 いわて防災・減災フォーラム2016」（実行委代表＝東根 千万億岩手日報社社長）と一部連動する形で、2泊3日の合宿形式の研修セミナーを開催。初日は盛岡市内でガイダンス後、フォーラムの基調講演（毎日新聞社特別編集員の岸井成格氏）、パネルディスカッション「教訓をつなぐ」（熊本日日新聞社、高知新聞社、岩手日報社の災害担当記者らによる討論）を聴講します。2、3日目はチャーターバスで大きな被害があった大槌町、釜石市、大船渡市などを訪問し、災害報道の問題や課題について考えます。

セミナーは、災害報道に携わる記者が社の垣根を越えて横断的に集まり、大規模災害を経験した記者の教訓を聞きながら、次なる災害取材に生かすためのノウハウ、人脈を築くのが目的です。昨年の第3回セミナーには全国各地の新聞、通信社から16社、20人を超える記者が参加し、活発に意見交換しました。

岩手日報創刊140周年記念事業 東日本震災5年 いわて防災・減災フォーラム2016共催

第5回

東北みらい創りサマースクール

—— 震災の記憶を風化させず、教訓を未来につなげていく ——

2016年8月6日(土) ▶ 9月4日(日)

会場：①岩手県民情報交流センター「アイーナ」(8/6,9/2) ②遠野みらい創りカレッジ土淵校 (9/4)



震災遺構 奇跡の一本松
(2016年7月12日撮影)



震災遺構 たろう観光ホテル
宮古市田老地区
(2016年7月12日撮影)



高台から切り出した土砂を運ぶ
ベルトコンベア 山田町織笠地区
(2016年7月12日撮影)



土地の造成が進む
末広町より大槌港方面
(2016年7月12日撮影)

※シンボルマークは、津波をはじめとする自然災害から子供を守る大人を表現しています。

主催：東北みらい創りサマースクール実行委員会

※東北みらい創りサマースクール実行委員会は、以下の大学・企業・団体などで構成されています。

岩手大学 岩手県立大学 遠野みらい創りカレッジ 心のかけ橋いわて
岩手日報社 IBC岩手放送 ユー・アイ・コミュニケーションズ

共催：いわて防災・減災フォーラム2016実行委員会 協賛：富士ゼロックス
後援：岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 遠野市教育委員会 滝沢市教育委員会
テレビ岩手 岩手めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手 朝日新聞社盛岡総局
毎日新聞社盛岡支局 読売新聞東京本社盛岡支局 盛岡タイムス社



東北みらい創りサマースクール実行委員会

〈事務局〉

〒020-8551 盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構内

TEL:019-621-6491 FAX:019-621-6493

http://www.comm.soft.iwate-pu.ac.jp/summer/2015/summer_index2015.html

第5回 東北みらい創りサマースクール

明日の復興を支える、地域作りを確実にするために、
また頻発する自然災害から身を守るために、
最新の研究成果や情報を発信していきます。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から5年数ヶ月が経過し、6度目の夏が巡ってまいりました。この間、全国の皆様から多くのご支援・ご協力をいただきながら復興に取り組んでまいりました。しかし、この一年の間にも今年四月の熊本地震等、各地で自然災害が発生し、多くの尊い命が奪われました。実際に被災地とならなければ、発災時の対応や備えに対する関心も十分には高まらないという現実も見えてきました。

私たちは、東日本大震災を経験した地に住む者として、これからの復興を支え、推進していく人材育成をめざして、今年で5回目となる『東北みらい創りサマースクール』を開催いたします。

そこでは、これまで被災地で復興に取り組んでこられた個人・団体の中から、防災・教育・メディア・文化の分野で苦労を重ねて活動をされてきた方々を選出し、『東北みらい賞』という光を当てたいと思います。

また、これからの復興に貢献できる人材育成を目的として、セミナーとワークショップも開催いたします。是非とも会場まで足をお運びいただき、各分野の専門家による防災に関する最新の研究成果発表や、防災・復興に関連したセミナー・ワークショップにご参加ください。



わた なべ よし かず
渡 邊 慶 和
岩手県立大学研究・
地域連携本部 本部長
ソフトウェア情報学部 教授



田老野球場
(宮古市／2016年7月12日撮影)



織笠地区ベルトコンベア工事
(山田町／2016年7月12日撮影)



希望のかけ橋
(陸前高田市／2016年7月12日撮影)

スケジュール

SCHEDULE (一部を除きワークショップは入場無料です)

【第5回東北みらい賞表彰式】(15:15～15:40)

表彰式は、「いわて防災・減災シンポジウム2016」(9月2日(金) 13:00～17:00、アイーナ7階小田島組☆ほ～る) において実施いたします。

岩手県立大学
災害コミュニケーションワークショップ／平成28年8月6日(土) 10:00～17:50、県立大学アイーナキャンパス学習室4
IBC 岩手放送
展示：「3.11の教訓をメディアに活かす」／平成28年9月2日(金) アイーナ7階会議室
心のかけ橋いわて
「多職種連携による未来志向の防災減災コミュニティ作りに向けて」 平成28年9月2日(金) 14時～16時 アイーナ7階 岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1
遠野みらい創りカレッジ (一部有料となります)
防災ワークショップ『地区防災訓練で防災学習、有事に役立つこと経験』 平成28年9月4日(日) 7:00～21:00 遠野未来創りカレッジ近隣の土淵地区センター等
記者研修 (非公開のため、一般の方は参加不可)
第4回現役記者のための短期研修セミナー「次の大災害に備えて～大震災報道の教訓と今後を考える」 平成28年9月2日(金)～4日(日) 県内各地

開催要領

岩手県立大学
1タイトル 災害コミュニケーションワークショップ
2開催日時及び会場 平成28年8月6日(土) 10:00～17:50、県立大学アイーナキャンパス学習室4
3主催および講師 主催：岩手県立大学 講師：佐々木 淳 (岩手県立大学教授)、松本 直人 (さくらインターネット研究所)、川端 章子 (岩手日報社)、 越野 修三 (岩手大学)、畑山 満則 (京都大学防災研究所) 司会：村山 優子 (岩手県立大学名誉教授、津田塾大学教授)
4内容 本ワークショップでは、災害情報伝達を考える。岩手県内の震災時の状況などを中心に報道関係者や当時の県庁の危機管理監を招き、経験談をお話しして頂く。さらに、県内の医療関係の調査結果、行政における情報処理、ITを活用した被災情報収集についての研究報告を行う。 ・リアルタイム被災情報収集：松本 直人 ・岩手県における災害時の医療体制についての提案：佐々木 淳 ・災害報道：川端 章子 ・災害時の情報活動：越野 修三 ・行政の災害対応に係る情報処理支援：畑山 満則 ・パネルディスカッション「災害情報伝達を考える」：参加者全員
5学生のための「災害コミュニケーションゼミナール」開講 開催日時及び会場：平成28年8月8日(月) 13:00～16:00 ソフトウェア情報学部A棟講座研究サーバ室5 講師：齊藤 義仰 (岩手県立大学教授) 内容は、「災害コミュニケーションワークショップ」に準じて実施します。

IBC 岩手放送
1タイトル 展示：「3.11の教訓をメディアに活かす」
2開催日時及び会場 平成28年9月2日(金) アイーナ7階会議室
3主催 IBC 岩手放送
4内容 2011年3月11日。 国内観測史上最大の大地震と、その地震が引き起こした大津波はかつて経験したことのない災害をもたらした。その東日本大震災から5年半。 震災翌年にIBC 岩手放送がまとめた大震災と大津波の記録映像で改めて当時の状況を再確認するとともに、この震災を教訓に地元放送局として独自に制作したスマートフォン向けアプリ「IBCつながるアプリ」を紹介する。

心のかけ橋いわて
1タイトル 「多職種連携による未来志向の防災減災コミュニティ作りに向けて」
2開催日時及び会場 平成28年9月2日(金) 14時～16時 アイーナ7階 岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1
3主催および講師 主 催：認定NPO法人 心の架け橋いわて 話 題 提 供 者：末村 祐子 (独立行政法人UR都市再生機構参事、復興庁復興推進参与、大阪経済大学客員教授) リレートーク：野澤 日出夫 (NPO法人環境パートナーシップいわて代表理事、元小岩井農牧(株)代表取締役)